

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	赤 井 睦 美	<p>1. ふるさと納税の今後の取り組みは？</p> <p>2. 地域の教育力アップと存続に民間力を！</p>	<p>ふるさと納税の減収見込みが出た時点で、「財政危機」という言葉が聞かれました。人気の品物が入手できないことで、町財政が危機に陥るということに大きなショックを受けました。以前町長から、「ふるさと納税という仕組みがいつまで続くのかわからないから、なるべく頼らない財政運営を行う」という言葉を聞いたことがありますが、おもいきり依存するかたちになっていたのでしょうか。それだけ町財政の重要な位置を占めるふるさと納税に対し、町としては今までどのような取り組みを行ってきたのでしょうか。</p> <p>(1) 町として行えることはPRだけなのでしょうか？</p> <p>(2) 返礼品の新規開拓はどのように行っているのでしょうか？</p> <p>(3) 企業が原材料確保に苦労していることに対し、町として協力できることはないのでしょうか？</p> <p>(4) 今は、品物だけではなく体験型も人気と聞きますが、今後、そうしたいろいろなかたちが考えられるのでしょうか？</p> <p>(5) 職員が少なくなり負担も大きくなるため、今後こうした取り組みは、民間に委託するほうが良いと思いますが、いかがでしょうか？</p> <p>今、全国には3,600の公立高校があり、そのうち、一年間に統廃合される高校の数は60校前後だそうです。今後、10年間で6から7校に1校は無くなる計算です。高校の統廃合による地元への影響は、なかなか想像しにくいのですが、八雲町で考えたとき、職員28人とその家族、生徒208人が八雲から移動すると想像すると、一つの産業が無くなると同じか、それ以上に町に対するマイナス影響は大きいと思います。これから更なる人口減少を考えたとき、高校が無くなった時点で八雲町は『子育てがしやすいまち』という選択肢から外れてしまいます。地域に高校があるということは、人口減少が進む八雲町にとって、とても重要なことです。しかし、高校は道立で町の管轄外となるため、今まで協働はなかなか困難でした。そこで、この状況をなんとかしようと、教育内容や地域の教育環境を魅力的なものにし、生徒に選ばれる学校を目指していこうと、今、全国各地で「高校魅力化プロジェクト」が取り組まれています。八雲町でも是非、こうした民間の力を活用して、教育を中心としたまちづくりに取り組んではいかがでしょうか。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長 教 育 長</p>

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	佐藤智子	1. 小学校・中学校もトイレに生理用品を	<p>2023（令和5）年2月28日付けの道新の記事によると、道教委の倉本博史教育長は、2月27日の道議会の一般質問に対し、新年度（2024年度）から、道立学校、全256校の女子トイレに生理用品を配置することを明らかにした。</p> <p>倉本教育長は「生理用品の配置は子どもたちが心身の健康を維持し、安心して学校生活を送るための環境整備の一環として必要」と、自民党・道民会議の大越農子議員へ答弁している。</p> <p>子どもたちの心身の健康と安心への環境整備は高校生のみならず、小学生、中学生にも必要なはずである。</p> <p>同記事には施行の前に試行期間を設け、アンケートを行っていることが記されている。道教委の試行を参考にしながら、実施に踏み出してはどうか。</p>	町長 教育長
		2. 中学生・高校生の居場所を考えて	<p>現在、八雲町内には、中学生・高校生が、放課後、家以外でゆっくり過ごせる場所がない。</p> <p>Wi-Fiが使えるので、はぴあのロビーでゲームをしているのは見かけるが、ほかにいくところがあるだろうか。</p> <p>既存の社会教育施設（図書館や体育館等）のWi-Fiを含めた利用を促進する工夫はできないか。また空き店舗を活用するなど、子ども支援の一貫として、学校と家以外の第3の居場所づくりに取り組むべきではないか。</p>	町長 教育長
		3. 防災用タブレットの配布は立ち消えになったのか	<p>私は昨年3月の第1回定例会で「災害に備えるには」と題して一般質問を行った。その中で、「災害時に備える戸別受信機やスマホ採用が進まない状態の中、防災ラジオを考えてほしい」と質問した。町長は「ラジオよりも目でも確認できるタブレットを考えている。8千世帯ほどに全戸配布した場合の見積もりを出している。なるべく早めに議会とも相談したい」と答えている。</p> <p>同僚議員も災害への備えに対し、「LINEの活用はできないか？」と質問した。その際は、町長は「全戸にタブレットを配る」と答えていた。</p> <p>残念ながら、総務経済常任委員会には一度もタブレットについての資料が提出されていない。その件は立ち消えになったのか伺う。</p> <p>今年度から「危機対策課」が設けられ、先般、スマホに様々な災害情報を得られる機能を搭載できる施策内容が総務経済常任委員会に報告されたが、スマートフォンを持たない人、使いこなせない人へは、どう対処していくつもりなのか。</p>	町長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
		4. 自衛隊への名簿提供	<p>自衛隊への名簿提供について、ほかの自治体では、18歳、22歳を対象としている事例が多いが、八雲町はそれに加えて15歳も対象にしている。</p> <p>当事者やその親（保護者）に承諾を得ることなく名簿を入手し、DMを送るなど、勧誘を重ねている。</p> <p>プライバシーの保護にも関わり、憲法上も問題がある。少なくとも未成年である15歳の名簿提供はやめるべきではないか。</p>	町長

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
3	三 澤 公 雄	<p>1. 給食の充実について</p> <p>2. 人材確保について2つの視点から伺う。</p>	<p>今回は見送られそうだが、国会では給食の国費負担が視野に入ってきている。八雲町はすでに無償化に取り組んでいるが、もし国費で負担されるようになったのなら、今、無償化に回している予算はどうなるのか？</p> <p>私は引き続き給食の「魅力up」に使われることを望んでいる。例えば、地場製品のさらなる充実や高校への給食提供などの施策が考えられるが、町長の考えを伺う。</p> <p>1つ目は担い手不足、働き手不足の観点から伺います。</p> <p>2月20日の北海道新聞に森町の取り組みが載っていた。『フィリピンのア克兰州と人材交流・技能者の受け入れ支援』という記事です。</p> <p>町内の担い手不足解消の1つの方策としてらしいのですが、八雲町は“新産業の創出”に取り組んでいます。そこを含めて“働き手確保”という町独自の政策をどのように考えていますか？</p> <p>2つ目は町内の人材づくりです。小学校・中学校そして高校も含めて、“八雲町内の仕事”を『知る！』という機会がまだまだ少ないように映ります。現在のインターンシップの制度では、八雲の全産業の職種にふれる機会を得ないまま、知らないまま、外に出て行ってしまっている。八雲の良さを知ることによって『八雲に還る』という発想にもつながるのではないかと考えていますか。</p>	<p>町 長 教 育 長</p> <p>町 長 教 育 長</p>